

令和 8 年度進行管理 **戦略点検シート**

◎基本政策 1 子どもたちに輝く未来をつなぐ

主要課題	No. 7	共に生きるための豊かな心と行動力（共生力）の育成
------	-------	--------------------------

● 4年後の目指す姿・計画期間の方向性 ●

主要課題の戦略シートで設定している「4年後の目指す姿」と「計画期間の方向性」を転記しています。

4 年後 の目 指す 姿	共生社会の実現に向け、特別な教育的支援を必要とする幼児・児童・生徒の能力を最大限に伸長するための、総合的な支援体制が強固になるとともに、子どもたちが他者や社会との関わりについて理解を深め、障害等の有無にかかわらず、互いに人格と個性を尊重し合いながら、共に生きようとする態度が醸成されている。
計画期 間の方 向性	○道徳教育の推進 子どもたちが自立した人間として、他者と共によりよく生きるための道徳性を育むために、道徳の授業改善を図るとともに、学校・保護者・地域が一体となって進める道徳教育を推進します。 ○いじめ問題の対策強化 いじめの問題に対し、学校と教育委員会が連携して対策に取り組むとともに、校内における組織的な対応力を強化し、いじめや暴力行為等の未然防止及び早期発見・早期解決を図ります。 ○特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒への合理的配慮の提供 合理的配慮の提供等について、研修を通じて教職員の理解促進を図るとともに、関係機関と連携の上、児童・生徒が障害者を理解するための取組を促進していきます。また、子どもの教育的ニーズに応じた、支援員等の人的支援を含めた基礎的環境整備の充実を図ります。

事業費（令和7年度） 上段：実績 下段：当初予算

1 どのような事業で何をしたか（実績）

戦略シートの課題の解決手段として紐づけた計画事業について、「何をしたか」「何がどうなったか」を記しています。

事業番号	事業名称	所管課	事業の持つ役割						事業費(千円)
33	いじめ問題対策事業	教育指導課	いじめ問題の組織的な対応力を強化する。						2,269千円
									(2,733千円)
	主な取組実績		単位	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)	R7(2025)	R8(2026)	R9(2027)
	① いじめ問題対策協議会		回	1	1	1	1		
	② 研修会参加者数（延べ）		人	100	112	124	—		
	③ いじめの未然防止等研修会参加者数		人	—	—	—	74		
	④ いじめに対する法律相談		件	7	4	5	3		
	R5(2023)	生活指導主任研修会、副校園長研修会でいじめの事案について取り扱い、様々なケースに基づいた学びを図ってきました。							
	R6(2024)	初任者研修、生活指導主任研修会でいじめの事案について取り扱い、様々なケースに基づいた研修を実施しました。							
	R7(2025)	初任者研修会、生活指導主任研修会において、都が策定した「いじめ総合対策（第3次）」に関する内容等を取り扱い、いじめの未然防止等を主なテーマとした、より充実した内容の研修を行うことでいじめの防止や初期対応、組織的対応等に関して理解を深めました。							
34	特別支援教育推進事業	教育指導課	特別な支援が必要な子どもたちが安心した学校生活を送れる環境を整える。						633,116千円
									(679,577千円)
	主な取組実績		単位	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)	R7(2025)	R8(2026)	R9(2027)
	① 特別支援学級設置校数（固定制）		校	12	13	13	13		
	② 交流及び共同学習支援員の配置（特別支援学級）		人	57	64	68	71		
	③ 特別支援教育担当指導員の配置（特別支援教室）		人	55	56	63	68		
	R5(2023)	各種支援員を配置し、特別な配慮の必要な児童・生徒への支援を行ってきました。							
	R6(2024)	令和6年度から特別支援教育担当指導員の資格要件を見直し、より広い人材の確保を図りました。							
	R7(2025)	特別支援教育担当指導員の資格要件見直しの定着もあり、より広い人材確保を図り、特別な配慮の必要な児童・生徒への支援を行ってきました。							

35	文京ふるさと学習プロジェクトの推進		教育指導課	子どもたちの、地域社会・地域文化等への理解を深める。	14,285千円 (15,229千円)
	主な取組実績				
	R5(2023)	児童・生徒が社会科の中で地域の学びを深めることができるよう、副読本（「わたしたちの文京区」（小学校版）、「わがまち文京」（中学校版））を改訂し、区立小・中学校全校に配布しました。また、文京ふるさと学習プロジェクト委員会を開催しました。			
	R6(2024)	平和特派員20名が沖縄県うるま市を訪問し、現地の生徒との交流や、戦争に関する各施設の見学を通して、平和の大切さについて理解を深めました。事前には8回にわたる研修を実施し、プレゼンテーションに向けた探究学習に取り組みました。現地ではその成果を発表し、帰校後には各学校での学習発表会等で、学んだ内容を全校生徒へ報告し、平和への思いを共有しました。			
	R7(2025)	地域の学びを深めることができるように、社会科等で活用できる副読本を作成し、区立小・中学校全校に配布しました。また、平和特派員20名が沖縄県うるま市を訪問し、平和の大切さを学びました。帰校後には各学校での学習発表会等で、学んだ内容を全校生徒へ報告し、平和への思いを共有しました。			
36	いのちと心の教育の推進事業		教育指導課	生命の大切さと他者を思いやる子どもたちの心を育む。	1,946千円 (2,528千円)
	主な取組実績				
	R5(2023)	区立小・中学校全校において「いのちと心の授業」や「道徳授業地区公開講座」を実施しました。また、区立幼稚園においても移動動物園を行い、生命尊重や道徳心の向上などについて、全校園の教育活動で取り組み、道徳教育・人権教育の推進を図りました。			
	R6(2024)	区立小・中学校全校において、「いのちと心の授業」や「道徳授業地区公開講座」を実施しました。また、区立幼稚園においても、移動動物園を行いました。さらに、「いのちと人権を考える月間」を通じて、生命尊重や人権教育等について、区立学校園で取り組み、道徳教育・人権教育の推進を図りました。			
	R7(2025)	区立小・中学校全校において、「いのちと心の授業」や「道徳授業地区公開講座」を実施しました。また、区立幼稚園においても、移動動物園を行いました。5月と12月の年2回を「いのちと人権を考える月間」として位置づけて生命尊重や人権教育等に取り組み、道徳教育の推進を図りました。			
●特記事項（実績の補足）					

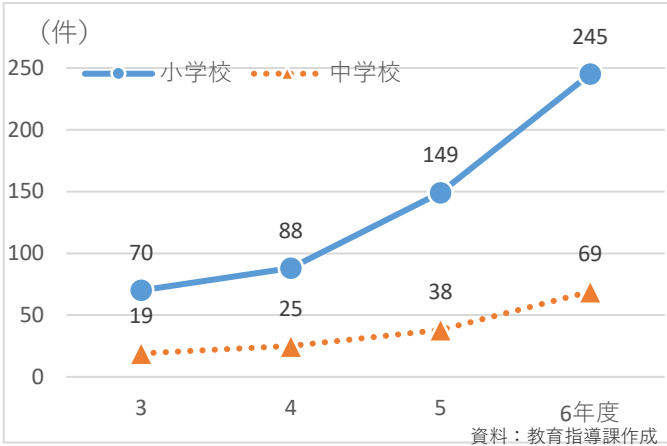
2 社会ではどのような動きがあったか（社会環境等の変化）		人口の増減や、国や都の動きなど、主要課題の背景に関して「何があったか」「今後予想される」等の社会の変化を捉えています。
チェック	チェック項目	
無	主要課題に関連する法改正があった（今後、法改正がある）	
無	主要課題に影響を及ぼす変化等があった（今後、変化等の可能性がある）	

3 成果や課題は何か（点検・分析）		1と2に基づき、計画期間の方向性ごとに「課題解決にどのような成果があったか」「成果が出ない要因は何か」「新たな課題が生じてないか」などを点検・分析します。
○道徳教育の推進		
各校の道徳教育推進教師を対象とした研修を年2回実施し、より効果的な道徳授業地区公開講座の実施や考え議論する道徳の授業が行えるようにしました。また、道徳授業地区公開講座では、保護者から道徳授業や道徳教育への取組に関するアンケートをとり、その結果を各校の道徳授業における質の向上等に生かすことができました。より多くの保護者・地域の方々に参加していただくため、各校は道徳授業地区公開講座の開催方法や内容に工夫を行いました。 若手教員に対し、道徳教育の在り方への理解を促し、より実践的な道徳科の授業改善を図るためには、教育委員会主催の研修内容を精査する必要があります。 移動動物園では、幼児が小動物に直接触れ合い、生命を尊重する精神を育むとともに、生きることの大切さなどを伝え、自己肯定感の向上を図る機会となりました。		
○いじめ問題の対策強化		
生活指導の要となる生活指導主任教員と経験の浅い若手教員に対し、いじめの未然防止等を主なテーマとした、より充実した内容の研修を行いました。研修で学んだことを校内で共有することで、いじめの積極的な認知に対する教員の理解や早期発見の取り組みが進み、いじめの認知件数の大幅な増加に繋がりました。引き続き、各校におけるいじめ防止基本方針や対応に関する理解を促し、組織的かつ適切な対応ができるよう支援していく必要があります。		

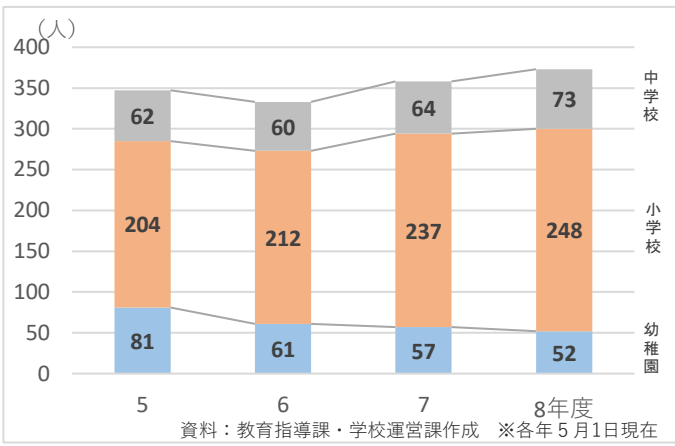
○特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒への合理的配慮の提供

特別支援学級設置校長会と連携し、各学校における特別支援教育の課題について意見交換や整理を行いました。特に、特別支援学級の児童数増加に伴い、教室の確保や支援体制の整備が課題となっています。また、合理的配慮の提供や教員の資質・能力の向上を図るため、インクルーシブ教育システム構築事業を実施し、各校へ講師を派遣しました。さらに、支援員等の安定的な確保に向けて採用要件を見直したことにより、人材を集めやすくしております。

●いじめ認知件数の推移



●特別支援学級に在籍する児童・生徒及び幼稚園特別保育児の推移



【SDGsの視点】



いのちと心の授業や道徳授業地区公開講座、移動動物園事業を通して、生命を尊重する精神を育むとともに、生きることの大切さを伝え、自己肯定感の向上を図りました。また、児童・生徒が性別や障害の有無、国籍に関係なく、無償かつ公正で質の高い教育を受けられるよう、適切かつ効果的な学習効果をもたらす包括的な学習環境を提供しました。



各種教員研修を通じ、いじめ問題や不登校への対応を含め支援を必要とする幼児・児童・生徒と関わる教員の資質・能力の向上を図りました。また、こどもたちが安心して学校園生活を送ることができるよう、警察や児童相談所、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、スクールサポーター等と連携し学校が組織的に取り組めるようにしました。
平和特派員事業においては、平和について学び、うま市を実際に訪れ、生徒間交流や施設訪問、体験学習を通して、平和の大切さについて理解を深めました。

4 今後どのように進めていくか（展開）

3を踏まえ、「何の対応が必要か」「何をどのようにしていくか」など、今後の戦略としての進め方を記しています。

道徳教育の推進のため、今後も実用的な研修内容を選定し、若手職員の育成に努めます。
また、いじめ問題については、児童相談所や警察などの関係機関との連携を図るとともに、スクールロイヤーを積極的に活用することで対策を強化し、早期解決に取り組みます。
特別支援学級については、設置校長会と協議を行い、学級を新設しました。特別支援教育の充実が図れるよう、引き続き検討してまいります。